●地域とともに●

明日にむかって

発行／社会福祉法人 陽光会　陽光保育園　編集／陽光保育園「明日にむかって」編集委員会
発行日／2004年3月20日　住所／東京都板橋区大谷口上町23-1　☎03(3956)1068

44号

今年の1月末に国連による「子どもの権利条約」実施状況の審査が行われました。前回(1998年)改善を勧告されたことがどうなっているかが問われた委員会だったようです。日本政府報告書は、全体として日本の子どもたちの状況は、改善されて問題ないというものでしたが、国連の判断は違っていました。「前回勧告が十分追跡されていない」として3項目をあげ、その一つがふたたび「教育制度改革」への批判です。「子どもの肉体的および精神的な健康に否定的な影響を及ぼし、子どもの最大限可能なまでに発達することを妨げている」と懸念を表明し、改善のために「子どもや親、関連する非政府組織の意見を考慮してカリキュラムも見直す」ことを勧告しました。具体例として「東京都の定時制高校統廃合の再考を関係当局に働きかけること」を日本政府に求めています。他にも「子どもの意見の尊重」など四つの改善が勧告されています。この勧告を大いに活用したいものです。　(T・R)

社会福祉法人陽光会

学童クラブを運営するにあたって

社会福祉法人陽光会は、板橋区からの委託を受けて、この四月から板橋第十小学校学童クラブを運営することになりました。板十小学童クラブには特別の思いがあります。陽光保育園の創始者・平沢静子さんが今から四二年前、「小学校に入ると、午前中で帰って来てしまう。放課後も一定時間低学年の子どもを見てくれる施設がほしい」という保護者の方々の声をうけて、他の保育園の母の会や父母の会と共同して「学童保育みどり会」を発足させたのがこの板十小学童クラブだからです。板橋区における学童保育の発祥の地といっていいその学童クラブを運営することになったのですから、亡き平沢先生もきっと喜んでいることと思います。これまでの陽光会の保育の精神を生かし、父母が安心して働けるように、子どもたちの発達保障と制度拡充のために精一杯仕事をしていきますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。社会福祉法人陽光会は、その学童クラブの指導員として、保育園の職員二名を配属することにしました。二人の抱負と思いを紹介いたします。

『どろだんご』づくりで仲間入り

保育士　及川悦子

学童クラブは、働くお父さん、お母さんとその子どもたちの生活のよりどころとしてつくられたものです。「ただいま！」「おかえりなさい」のなにげない会話の中から、その日の子どもの体調や心を受けとめ、その子にとって安心して有意義に過ごせる場であるようにする、それが私たち指導員の役割だと思います。

業務の引き継ぎのため、一月から週一回くらいのペースで板十小学童クラブに通わせていただいているうちに、子どもたちとも少しずつ仲良くなってきました。そんなある日、庭の土を掘り、『どろだんご』（『つるぴかだんご』ともいう）を私が作っていると、数人の子どもが目を丸くして覗き込んできました。「どろんこはイヤだな」という顔で見ている子も、作り方を教えると、さすがは小学生です。見る見るうちにコツをのみこみ、どろだんごが出来上がっていきます。最後の磨きは、力を入れすぎても入れなさすぎても上手く光りません。そこがまた大変でもあり楽しいところでもあります。ぴかぴかに光ってくると、「おー！」という驚きと喜びの声が聞こえてきました。おやつの後も磨き続ける子もいました。

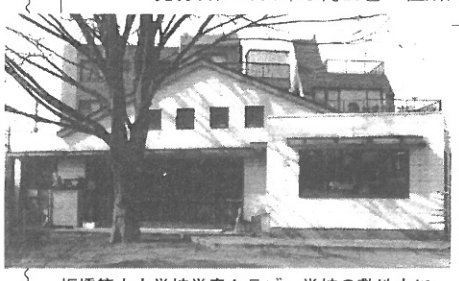
数日たったある日、また学童クラブに行くと、下駄箱の中に『どろだんご』がたくさん入っていました。私と一緒に作ったどろだんごを大切にしているなと、嬉しくなりました。そこへ学校から帰って来た子どもが「これ、持ってきた！　お母さんにだんごの話をしたら、持って行っていいよって」と言いながら、ジャージの切れ端を掲げました。ジャージで磨くのが一番光ると私が話したことを覚えていたのです。子どもの話に耳を傾け、応えてくれたお母さんも素敵だなと思いました。どろだんごを嫌がっていた女の子たちも、「ねぇ、私にもどろだんご教えて！」「ボクにも！」と声をかけてくる子が増えました。『私も子どもたちの仲間に入れてもらえたな！』と実感し、子どもたちと気持ちが通じ合う喜びを感じました。

そして数日後、「オッス！　待ってたぜ！」と子どもたちが迎え入れてくれたときは本当に嬉しかったです。

＊　＊　＊

私は、両親が働いていたので、鍵っ子でした。田舎ということもあってか学童保育もなく、年子の妹と寂しい思いをしました。そんな思いをした私が四月から学童クラブの指導員になります。私のような寂しい思いはさせたくありません。「学童クラブって楽しいよね」と思えるところに、そして「バイバイまた明日ね」という、さよならの中に「明日が楽しみ」という明日への期待が込められる学童クラブにしていきたいと思っています。

子ども一人ひとりを大切にし、一人ひとりの成長をとらえながら、父母と職員がともに心を寄せ合い、智恵を出しあい、協力しあって、よりよい学童保育をつくっていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。



板橋第十小学校学童クラブ。学校の敷地内に別棟で設置されており、専用の庭もあって、いろいろな遊びができます

のびのびひろば

乳幼児と保護者のための遊び場
毎週　火曜日＆木曜日
（春・夏・冬休みは除く）

学童クラブでは、乳幼児を家庭で子育てしている保護者の方のために遊び場を提供しています。
子育て相談もお受けしますので、気軽にお越しください。

◇曜日　毎週　火曜日・木曜日
◇時間　午前10時～11時30分
◇場所　板橋第十小学校学童クラブ
◇対象　乳幼児とその保護者
◇内容　お子さんとのスキンシップ
　　保護者同士の交流
　　子育て相談など

〔問合せ先〕
板橋第十小学童クラブ
☎3974－2665

親子でいっしょに遊びましょう

（リズム、うた、砂あそび
散歩、赤ちゃん体操など）

陽光保育園では、地域の乳幼児、お母さんを対象に月1回、「親子でいっしょに遊びましょう」の催しを行っています。同時に育児相談にも応じています。お気軽にご参加ください。無料です。

〔対　象〕　0歳児～5歳児
〔場　所〕　陽光保育園
〔時　間〕　午前9時～11時

●2004年度の予定

4月27日(火)	5月18日(火)	6月15日(火)
7月7日(水)	9月21日(火)	10月19日(火)
11月2日(火)	11月16日(火)	12月21日(火)
1月18日(火)	2月15日(火)	3月15日(火)

●事前にご連絡のうえ、活動しやすい服装でご参加ください。　☎3956－1068

子ども一人ひとりのよさを発見したい！

保育士　植野雪子

両親が働いていたため、私は0歳から保育園に通い、小学校入学と同時に学童保育クラブ通いはじめました（当時は学童保育クラブでなく学童保育クラブという名称でした）。怖がりで泣き虫だった私（四年生になっても学校の予防接種で泣いていた）は、夏休みのプールが嫌で学童保育クラブの前でもじもじしていると指導員の先生に励ましてもらい、小さなことでも泣いて、落ち着くまで抱っこしてもらったりと、先生たちには本当にお世話になりながら大きくなったと思っています。

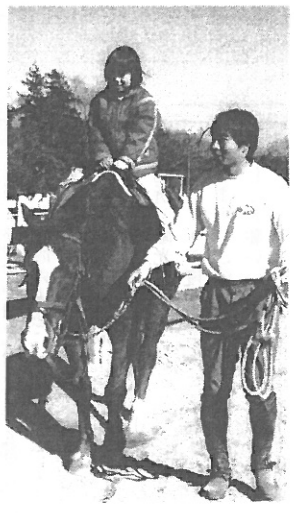
先日、そのお世話になった学童の先生と一八年ぶりにお会いすることができました。「泣き虫のゆっこちゃんが大きくなったね」と言われたときは、自分が相当な泣き虫だったことを、またまた思い知らされました。そんな泣き虫の私でしたが、学童保育クラブの生活の中ではたくさんの自信と勇気をもらいました。毎日のように遊んでいたドッジボールやSケンでは、体の小ささをいかして宝をとったり、最後までボールに当たらないでいたことが自慢でした。一番うれしかったのは、ビー玉遊び博士の賞状を貰ったことでした。毎日遊ぶ中で次第に上達しただけのことでしたが、賞状を貰ったことが大きな自信につながっていったのでした。先生たちはいつでも、日常の何気ないことから自信を持てるよう気に掛けてくれました。

私自身も、学童の指導員として働いていく中で、毎日の何気ないことの中から子ども一人ひとりのよさをたくさん発見していきたいと思っています。

また、私が通った学童保育クラブは、お父さん、お母さんたちの「小学校下校後も、子どもたちが安心して過ごせる場所を」という運動の中でできた、まだ開設二、三年目のクラブでした。その施設ができたばかりのころ、自分はまだ通わないのに見に行ったことがあり、母と友達のお母さんがうれしそうに「ここが学童だよ」と教えてくれたのを覚えています。今回の委託にあたっての保護者説明会でも、区にきちんと要望していくお母さんたちの姿を見て、いつでも子どもたちのためにと考え行動する、お母さん、お父さんたちの力はすごい！　と思いました。子どもたちが楽しく毎日を過ごせる学童クラブを、お母さん、お父さんたちとも協力しながら創っていきたいと思っています。

【園児募集】
5歳児＝2名
お問合せは区保育課または当園まで

陽光保育園／最近の行事から



1月23日、かもしか組（年長児）は、埼玉県鶴瀬の日本乗馬クラブに遠足。ひとりひとり馬に乗せてもらって大喜び。卒園式に踊る荒馬踊りへのイメージもふくらんだことでしょう。お天気もよく、楽しい一日を過ごしました。

特別企画

●障害児とそのお母さんの記録

良と歩いた六年

●自閉症の子どもとともに

中西早苗

陽光保育園は、障害児保育の制度がまだなかった1972（昭和47）年から障害児を受け入れてきました。障害のある子もない子も、自然なかかわりのなかでお互いに育ち合うことが望ましいと考え、障害児保育に必要な専門的な知識も学び探りながら保育してきました。中西良くんは、3歳の後半に入園し、今年3月で卒園します。その良くんのお母さんに、良くんとともに歩いてきた6年間を語ってもらいました。

ある日、五歳の弟の佑が言いました。

「良ちゃんも大人になるために一生懸命ガンバッているんだよね」

ビックリ！　でもそのとおりです。息子の良は、重い自閉症という障害を持っています。六歳の今も、言葉は出ていないし理力もとぼしい。けれど、一生懸命生きています。

良は結婚九年目で授かった待望の子どもでした。それはもう言葉では言い表すことのできない幸せでした。でも、子育てはそう甘くはなかった。昼と夜が逆転！　寝不足で疲れがピークに達したとき、「なぜ産んだんだろう」という思いが頭をよぎったことがあります。「いつか終わる」そう自分に言い聞かせ……、しかしこのひどい夜泣きは三カ月半続きました。そして今も、睡眠障害として夜中に起きる現象が続いています。良が生まれてこの六年、ぐっすり眠った日が何日あるでしょうか。

良は小さく生まれましたが、順調に成長しました。言葉は確かに遅かったけれど、ムを「ママ」と呼んでくれました。少しずつ言葉が出始め、喜んでいたのも束の間、二歳の誕生日を迎えたころ、その言葉がすべて消えたのです。後になって自閉症の特徴として珍しくないことを知りましたが、そのときはショックを隠し切れませんでした。同時に、一歳下の弟が成長著しく、良との明らかな違いに打ちのめされる思いでした。でもこのときは、言葉さえ出れば普通になると思っていて、自閉症ということに気づかぬまま引越しをしました。環境の変化が苦手な自閉症児だった良は、笑顔が消え……、円形脱毛症……チック……と大暴れして泣き続け、ついには玄関を出ると一歩も歩かなくなりました。良のショックは想像を絶するものだったのです。

＊　＊　＊

その後、通園施設に通うようになり、少しずつ笑顔を取り戻しました。そんな良に保育園探しの話が持ち上がりました。でも、保育園探しの中で厳しい現実をまのあたりにし、迷いながら出会ったのが陽光保育園でした。古くて狭い園舎、でもそこには、今まで見たことも感じたこともない、明るさとパワーがみなぎっていました。先生も子どもたちも自然に受け入れてくれ、大きな声で笑い合うことができました。「ここなら良を引っ張ってもらえる」、私はそう確信しました。

保育園に入った良は、本当に変わりました。見向きもしなかったものを食べるようになり……、服が脱げるようになり……、靴をしまえるようになり……、一歩も歩かなかった良が散歩するようになったのです。皆が一歳でできることが五年も六年もかかる良ですが、日々前進しました。先生方の陰の努力は大変なものだったと思います。でも、子どもたちの力の大きさを痛切に感じました。園全体で温かく見守りながら育ててもらったお陰だと思っています。

＊　＊　＊

障害――私にとっては他人事でした。まさか自分の身に降りかかるとは夢にも思わず、この六年、現実と向き合うことに必死でした。なかなか事実を認めることができず、「夢であってほしい」、そんなことを考えては、自分を責め苦しみました。「なぜ私が」と神様を恨んだこともありました。そんな私を支えてくれたのが、弟の佑です。佑がいてくれたから泣いてばかりはいられなかった。佑のやんちゃな笑顔にどれだけ救われたことか。良にとっても私にとっても、かけがえのない大事な大事な宝です。

これからのことを考えると不安だらけです。でも、良はこの世にたった一人しかいない。その良が、私を母と選んで生まれてきてくれたのです。一緒に前を向いて、ゆっくり歩いて行こうと思います。いつか「ママ」と呼んでくれる日を信じて……。

▶良くん（左）とお母さんと弟の佑くん
▼かもしか組（年長児）のお友達と、陽光保育園の前で。後列中央が良くん

1・25東京の子どもの育ちを守る共同集会

1月25日、千代田公会堂にて東京の子どもの育ちを守る共同集会が開かれました。民間保育園の人件費（補助金）カットは許せないという思いのもと、東京中から保育園の父母や職員など820人もの参加がありました。陽光保育園からも父母、職員、理事など20人ほどが参加しました。そのうちのひとりのお母さんの感想を紹介します。

「保育所からの洗濯物を見て、今日もたくさん遊んだんだなあと実感します」。父母代表のパネリストのお母さんはこう言ってから、今すすめられている東京都の補助金「再構築」案は子どもを犠牲にするものだと発言しました。本当にそのとおりだと思いました。このままいけば、子育ての拠点である保育所の土台が崩され、安心して働き子育てすることもできなくなってしまうと感じました。陽光保育園でも、一人ひとりがこの問題を考え、率直に話し合う場が必要だと感じた一日でした。

（4歳児クラス・高橋樹理の母　流目沙織）

シリーズ　戦争と私

憲法9条は、日本人の誇り

西村治美

私が生まれ育ったところは平家の落人部落といわれる山の中でしたので、戦争といっても爆弾が落ちたわけではないし、また、幼かったこともあって、ほんとうの恐ろしさは大きくなってから話に聞いたり、書物などで知るのですが、それでも断片的に記憶していることがあります。

若い働き手が次々と戦場へ送りだされていったこと、17歳の従兄弟が出征するときに曾祖父が「こんな子どもをとっていくようじゃあ日本も負けだな」と言って、「特高に聞かれたら連れていかれるぞ」と咎められたこと、飛行機の音が聞こえてくると、B29が爆弾を落とすといって家の中に隠れたこと、白い土蔵を墨で塗ったり、光が外に漏れないよう電球を黒い布で包んだりしたこと、鉄砲の玉にするからとタンスの把手まで供出させられ麻のヒモで代用したことなどなど。食糧に関しては、我が家は農家だったので、近所の人が配給の米がなくなると我が家に来て、米と交換に砂糖や粉味噌を置いていき、そのためあんこに甘い砂糖が入るのが子ども心にうれしかったことが思い出されます。

また、東京から疎開してきたおばさんが、東京では土手に草が生えるひまがないのよと言われたことも、なぜだろうと不思議だったせいかよく覚えています。

まだ4～5歳の子どもだった私に、黒い蟻は日本兵だから大切に、赤い蟻はアメリカ兵だからやっつけろと言った人がいて、必死に踏みつぶしたことも覚えていますが、つくづく教育の大切さを感じます。

今から25年ほど前、私の長男が中学生のとき、「かあちゃん、日本はもう戦争はしないと思う？」と聞いてきたので、「もうしないでしょう。第2次世界大戦でこりごりしたはずだから」と答えると、「かあちゃん、この軍靴の音が聞こえないのか。好戦的な人たちはその時機を狙っているんだよ」と思いつめた顔で言ったことがあります。

歴史は繰り返されるといいますが、今まさに憲法を無視して自衛隊が戦争状態のイラクへ派遣されました。

ある人が、第二次世界大戦をなぜ止められなかったのかと親の世代を責めたのに、今またこのような事態に至ったことで、自分たちが今度は子どもや孫に責められると言っていました。

今、自由にものが言えるうちに、なんとしても戦争は止めなくてはならないし、このままでは憲法9条は風前の灯です。憲法9条を全世界に、とくにアメリカに輸出できたらいいなと思います。憲法9条を持っていることが日本人の誇りと思えるよう、私もできるかぎり多くの人に接してアピールしていきたいと思います。

（長野在住／1歳児クラス・西村結和の祖母）

出番ってほどじゃないけどさ

陽光のスクスク保育がいいんじゃないの。長女・美紀の担任だったO先生、次女・香奈の担任のS先生、どっちもデカイからおおらかなのかね？　Oのほうがちょっとデカイけど。香奈も「子どもは風の子」だっていばってるよ。鼻水ばかりたらして、それじゃ風邪の子だって。

でも、裸足での園の生活、健康にはいいんだって？

ただ、夏場は裸足のまんま靴をはくから、足が臭くてかなわない。このまえ香奈は、「足臭いからあっち行って」って美紀に言われ、自分の鼻に足をくっつけて臭いを嗅ぎ、しかめっ面をしていたのには笑ったね。あとで自分で足を洗ってんの。

あ、それで思い出したけど、陽光保育園後援会のハイキングで巾着田に行ったとき、トイレでずり落ちて便器のなかに足を突っ込んだんだって。落ち着きがないからそういうことになるんだ。

落ち着きがないといえば、このまえ、レストラン大谷で食事をしていたとき、香奈ときたら鼻歌を歌ったり、チョロチョロしたりでまったく落ち着きがない。とうとうテーブルの下に潜って遊びだしたから、「うるせえ！」って怒鳴ったら、隣のテーブルに6人くらいで来ていてバカ笑いしていたおばあちゃんたちが静かになってしまった。うちたちが帰ったあと、「なあに？　あれ、ヤクザかしら？」なんて言われてたらたまんない。

飲食店での事件をもうひとつ。近所の行きつけの店に香奈を連れていったら、気のいいママがメロンを出してくれた。メロンが好きな香奈は大喜び。メロンはいつも独り占めなのに、ふと気づいたら隣のお客さんの口に入れてあげている。珍しいこともあるもんだなと思っていたら、そのお客さん、「こいつ、落としたやつを俺の口に入れてるんだよ」だって。いやいやそのくらいじゃないと世の中渡っていけないけど、いったい誰が教えたんだ？

まあ、出番ってほどじゃないけれど、くだらない話はこのくらいにしておこう。

（3歳児クラス・牧野香奈の父　牧野　弘之）

ごあんない

◆陽光保育園後援会・父母の会
春の交流会
日時　4月29日㈷　11時～14時
場所　平和公園
上板橋駅北口徒歩5分
教育科学館そば
会費　大人500円　子ども無料
＊バーベキューをします。コップ、箸、皿をご持参ください。皆様、お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

◆陽光保育園後援会総会
日時　5月22日㈯　18時30分～21時
場所　陽光保育園ホール
＊第1部は尺八と琴の演奏（子どもにも親しみやすい曲を選定）。第2部（総会）との間の休憩に軽食を用意します。お子さま連れでご参加ください。

◆陽光保育園夏のバザー
日時　7月4日㈰　10時～14時
場所　陽光保育園
＊2004年度も夏と冬のバザーを行います。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。